



発行所 国鉄労働組合 盛岡地方本部
発行 齋藤 庄司
編集者 沢田 光広
TEL 019-622-5021
メールアドレス numori@poem.ocn.ne.jp

2012.9.10 第1449号

拡大キャッチコピー

「新しい仲間づくりを皆の力で」
「一緒に解消しませんか、あなたの疑問。
加入ってます」

第6回地方本部組織拡大対策会議

もう一歩前に出て拡大行動を

高崎地本から3人招き経験交流

地方本部は、9月2日・3日に第6回組織拡大対策会議を盛岡市のつなぎ温泉・清温荘で37人が参加する中で開催した。
会議には、拡大経験交流として高崎地方本部から倉林誠地方本部副委員長と社会人採用者で2010年5月に国労に加入した大和田雅仁(高崎新幹線保線技術センター)さん、東労組から今年5月に国労加入した平野賢規(茨川保線技術センター)さんの3人を招き、取り組みや加入の決意などの報告も受け、分散会・全体交流と意見交換を行った。
会議では、拡大に向けて自分たちから壁をつくらず、もう一歩前に出て、組織拡大を全組合員のものとし全力を挙げて行く意思統一をはかった。

壁を作らず取り組もう

会議は、齋藤委員長が「組織拡大に打って出る意思統一を図っていききたい。一歩ずつ進む拡大の行動を改めて、ステップを早くして会社への影響力のある力をつけていこう」と挨拶し座長に就任、進められた。
続いて拡大経験交流に入り、高崎地方本部の倉林副委員長、大和田雅仁(34歳・高崎新幹線保線技術センター)さんと平野賢規(40歳・茨川保線技術センター)さんから報告を受けた。



「加入のキッカケなどを話す大和田雅仁さん」

倉林副委員長は、「今日参加の2人とも社会人採用、高校卒の社員と若干雰囲気が違う。今回は96年当時のような加入した者に対する東労組の異常な対応はない。やっぱり浦和事件の影響と思う。新規採用者の取り組みは、あらゆる手を考え情報キャッチに努力し取り組んでいる。若い人と話するとき、過去の我がが受けた差別を言っても駄目だ。2人は今自ら東労組の青年部に声をかけ拡大に向け取り組み、東労組の役員が国労に入ることを不利益をしつこく言う」と挨拶し座長に就任、進められた。
続いて拡大経験交流に入り、高崎地方本部の倉林副委員長、大和田雅仁(34歳・高崎新幹線保線技術センター)さんと平野賢規(40歳・茨川保線技術センター)さんから報告を受けた。

倉林副委員長は、「今日参加の2人とも社会人採用、高校卒の社員と若干雰囲気が違う。今回は96年当時のような加入した者に対する東労組の異常な対応はない。やっぱり浦和事件の影響と思う。新規採用者の取り組みは、あらゆる手を考え情報キャッチに努力し取り組んでいる。若い人と話するとき、過去の我がが受けた差別を言っても駄目だ。2人は今自ら東労組の青年部に声をかけ拡大に向け取り組み、東労組の役員が国労に入ることを不利益をしつこく言う」と挨拶し座長に就任、進められた。
続いて拡大経験交流に入り、高崎地方本部の倉林副委員長、大和田雅仁(34歳・高崎新幹線保線技術センター)さんと平野賢規(40歳・茨川保線技術センター)さんから報告を受けた。

当面の主な日程

- 9月17日(盛岡) 東北協議会役員会
9月21日(盛岡) 第12回地方本部執行委員会
9月22日(盛岡) 第1回地方本部ボウリング大会
9月22日(盛岡) 第48回家族会盛岡地方連合会総会
9月30日(盛岡・青森) エルダー組合員学習会
10月13・14日(盛岡) 第68回定期地方大会

ら携帯に電話が入り、国労だと試験に合格しないなどと話していた。皆が東労組に加入したので自分も加入した。署名行動など東労組の取り組みに疑問を感じたし、一緒に酒を飲むこともなかった。国労の人は面倒臭い、人間性がどこか違うと思っていた。
その後、全体討論で7人が発言、高崎地本の3人から「加入は個人が最終的には判断することなので、考えすぎず加入を進めてほしい」「職場では国労が中心と思う、若い人に声をかけ、加入用紙を渡し話してほしい」「国労組織に自信を持ち、整えてからではなく、すぐ声掛けをしていこう」など感想を受けた。

その後、菊池組織部長が組織拡大に向けた取り組みの提起と分散会の説明が行われ、3分散会が行われ一日目を終了した。
翌日は、分散会報告からで①昨年の会議とは報告内容が変化している。しかし、今一歩踏み出せないのが現実だ②失敗を恐れず取り組みを頑張っていく③職能別によって若い人との接し方の違いもある④役員のための拡大の取り組みでなく、組合員全体で取り組み体制を作ろうなどの報告が行われた。

その後、全体討論で7人が発言、高崎地本の3人から「加入は個人が最終的には判断することなので、考えすぎず加入を進めてほしい」「職場では国労が中心と思う、若い人に声をかけ、加入用紙を渡し話してほしい」「国労組織に自信を持ち、整えてからではなく、すぐ声掛けをしていこう」など感想を受けた。

その後、菊池組織部長が組織拡大に向けた取り組みの提起と分散会の説明が行われ、3分散会が行われ一日目を終了した。
翌日は、分散会報告からで①昨年の会議とは報告内容が変化している。しかし、今一歩踏み出せないのが現実だ②失敗を恐れず取り組みを頑張っていく③職能別によって若い人との接し方の違いもある④役員のための拡大の取り組みでなく、組合員全体で取り組み体制を作ろうなどの報告が行われた。

地方本部は、8月19日・14時30分から、八戸市・八戸駅前「ユートリー」において、64人が参加する中、第1回支部・地区協・分会代表者会議を開催した。
会議は、小川副委員長の開会あいさつではじまり、座長に齋藤委員長を選出した。座長就任と地本執行委員会を代表してあいさつに立った齋藤委員長は「国労の組織力で全組合員一丸となって組織の拡大を勝ち取る」と参加者に訴えた。
「第4回マイカー共済加入促進優秀機関」14分会の表彰後、佐々木書記長が①国労青森支部会館に関する事項②JR東日本「労働条件に関する協約締結など意思統一」=八戸=

労働条件に関する協約締結など意思統一

第1回支部・地区協・分会代表者会議

戻ってきやすい環境作りをし、さらに拡大にむけて頑張る。
◎国労に加入すれば、飛ばされるのではないかと、という不安の声がある。
◎長期の単身赴任を強いられる組合員を、一日も早く希望地に戻す取り組みを強化して欲しい。
◎グループ会社と一体となった業務体制の更なる推進について⑤第3回地区集会・当面の日程⑥その他の6項目の協議事項を提案した。
項目ごとに協議には入り、以下の意見が発言された。
◎1名の組織拡大を勝ち取ることであった。東労組の人が



「好・珍プレーで盛り上げた大会」

青森地区協事務局長 工藤 忠久
参加者があり好プレー・珍プレーで大いに盛り上がりました。優勝は工藤圭子さん(運転分会、仁嗣さんの奥様)2位は相馬英夫さん(駅連分会、3位は西沢激さん(施設分会)でした。
終了後、アラスカビアガーデンにて懇親会を開き各分会・家族との交流を深めました。
そして9月22日に開催される地本大会に向け青森地区協の健闘を誓い合いました。

家族含め31人参加でプレー

優勝は工藤圭子さん(家族) 青森地区協ボウリング大会

8月16日に青森地区協主催のボウリング大会がアオモリボウルで開催された。
お盆後でしたが、組合員・家族(女性6人含む)31人の参加があり好プレー・珍プレーで大いに盛り上がりました。優勝は工藤圭子さん(運転分会、仁嗣さんの奥様)2位は相馬英夫さん(駅連分会、3位は西沢激さん(施設分会)でした。
終了後、アラスカビアガーデンにて懇親会を開き各分会・家族との交流を深めました。
そして9月22日に開催される地本大会に向け青森地区協の健闘を誓い合いました。

エルダー組合員交流会

2012年9月30日(日) 13時15分
盛岡支部組合員
盛岡国労会館4階会議室
青森支部組合員
青森国労会館2階会議室
多くの組合員の参加を

ていこう
東日本大震災から一年六ヶ月を経過しようとしている。被災地の復興・復興作業は遅々として進まず、被災線の復旧は全く目途が立っていない。
8月20日、気仙沼線の不通区間(気仙沼・柳津、約52キロ)で、バス高速輸送システム(BRT)による暫定運行が始まった。大船渡線についても21日、大船渡市が容認する意向を表明し、陸前高田市もルート変更を条件に受け入れる方針を示した。両市とも、気仙沼線同様鉄道の復旧が大前提とした上で、「今困っている被災者のため、あえざる足を確保しなければならず、BRTの仮復旧を受け入れざるを得ない」と苦渋の判断。震災発生後、清野社長(当時)は「被災線区について責任を持って復旧を図る」旨を明らかにしている。
企業の社会的責任からも履行されなければならないが、何よりも鉄道の安全が最優先であることは論を俟たない。地域住民の移動する権利を保障する意味でも、早期復旧に向け国の支援が改めて求められている。先日、異業種の方々の懇談の場で、震災時における貨物列車による石油輸送について「よくできたものだ」との声があった。会社は違えども、元々は同じ国鉄の柱を超えた鉄道人としての連携はもとより、そうした「在来線」というベースがあったからこそあの緊急輸送ができたと思う。いま新幹線延伸の陰で在来線が切り捨てられようとしている。「喉元過ぎれば熱さを忘れる」ではないが、震災を通じて改めて認識をされたライフラインとしての在来線の重要性を、私たちは一度振り返ってみる必要があるのではないかと(要)

ノーモア広島。長崎。そして福島

福島大会 早く普通の生活がしたい 地元福島の深刻な生の声

盛岡運輸分会 白沢 俊明

7月28日福島県教育会館で、全国から当初700人の予定が一般参加者も含め1050人と多くの人が集まり、原水爆禁止世界大会福島大会が開かれました。大会は黙とうから始まり、元原子力プラント設計技術者の後藤政志さんによる「福島原発の現状と再稼働の危険性」、医師の振津かつみさんによる「福島原発事故後の放射能汚染と被爆」の講演や地元福島からの現状報告などがあり、如何に原発が危険であるか、被爆者の「心、身体、暮らしの苦しみ」は健康被害にとどまらない、生活全体に及ぶ被害であるか、避難勧告が出され、帰りたいか、帰れない、職を失い一家離散、3、15年後に発病する甲狀腺異常など、精神的苦痛ははかり知れないものがあり、「早く普通の生活がしたい」という切実な訴えなど、生の声を聞いて改めて福島の人達の深刻な状況が分かりました。



▼今年も多くの献花がされた、広島原爆死没者慰霊碑

▲原爆ドーム付近で記念撮影する岩手県代表团

▶集約集会の行われた長崎会場

被爆67周年 原水爆禁止世界大会

広島大会 反原発・脱原発の訴えに 学習を深めることが必要

地方本部執行委員 菊池 要悦

昨年引き続き今年も原水爆禁止世界大会(広島大会8・3・6)に参加の機会を得、国労派遣として参加した。岩手県の代表团は齋藤庄司平和環境岩手県セクター副議長(地本委員長)を団長に、労組や市民団体等から男性は15人、女性8人、小中学生13人の計36人が参加してきた。

長崎大会 確実に引き継がれている 長崎の平和への思い実感

青森支部委員長 阿部 一久

私は8月7日の「核兵器廃絶」2012平和ナガサキ大会(原水禁・連合・核禁会議3団体主催)に参加するために前日6日から長崎入りしました。予定では青森空港14時55分出発、羽田空港に16時10分到着し、16時55分発の長崎行に乗り換えて長崎空港には18時45分に到着するはずでした。しかし、羽田で青森間上空の気流の乱れで30分遅れの出発となり、結局羽田には17時到着、私は最終19時15分発の便を手配して貰いましたが、今度は長崎行き最終便が青森からの折り返し便との事、おまけに30分遅れで羽田に到着し出発が20時、長崎市内のホテルに着いたのは22時40分でした。

8月4日の午前中は、語り部である池田精子さんによる「被爆体験談」学習会。池田さんは自らの体験を通じ、平和の原点は人間の痛みを知ることにあり、憎しみの連鎖を断ち切り、戦争を続けてきた歴史の転換が必要だと話した。午後は、広島平和記念公園資料館を見学し、折鶴平和行進へ。一年振りの平和公園資料館で、改めて核兵器の凄まじさ、非人道さを痛感。広島までは遠くてもなかなか行く機会はないと思うが、是非一度の見学を勧めたい。17時半から開催の連合・原水禁・核禁会議の三団体による「核兵器廃絶2012平和ヒロシマ集会」へは6800人が結果。被爆者の牧智之広島県原爆被害者団体協議会事務局長が自らの体験と平和運動の大切さを訴えた。

5日は第3分科会「脱原発とその為の自然エネルギー政策」へ参加。藤井石根明治大学名誉教授が講演し「地震国・日本で原発の設置は危険性が高い。原発が産出した使用済み核燃料は常に冷却が必要であるが貯蔵量も限界に近く、原発稼働によって使用済み核燃料が増え続ければ物理的な事由で原発は立ち行かなくなる。自然エネルギーの本格的な導入を図ると同時に、大量生産・大量消費・大量廃棄として24時間型社会の抜本的な見直しが必要ではないか」と訴えた。今、エネルギー消費型社会から低エネルギー型社会への転換を促しているが、今日の社会は確かに見直すべき点が多々あると思う。

翌7日は昼前に原水禁青森県民会議川村団長、泉事務局長と合流し今後の予定を確認、団長と2人で13時30分に爆心地公園で開催される「オスプレイ配備と原発再稼働は許さない!」脱原発!脱基地!ナガサキ集会に参加しました。その後、15時45分からの平和ナガサキ大会会場前での東北ブロックのチラシ配布手伝いをしながら青森県からの参加者と合流、長崎大会に参加しました。大会では約4500人参加のもと、原水禁川野議長が「広島・長崎そして福島の悲劇を二度と繰り返してはならない」と開会あいさつし、高校生平和大使や長崎市民の方々が「親子で綴る平和の願い」を構成詩で訴えました。

8日は青森県民会議参加の8人で第1分科会に参加、福島第1原発事故の状況や被害状況について報告と提案を受け脱原発に向け何が必要かを議論しました。午後にはちょっと一息、8人で長崎観光をして中華街で交流会、美味しい長崎ちゃんぽん、皿うどんに舌鼓を打ちました。9日には青森県民会議が毎年行っている慰霊碑墓参に向かい、I女性会議の皆さんから託された千羽鶴を供え御霊を供養し、そして9時からのまとめ集会に参加しました。

「がん」の保障 <生きるためのがん保険Days(デイズ)>
保険期間:終身(抗がん剤治療特約は10年更新) 契約年齢:0歳~80歳、スタンダードプラン 入院給付金日額10,000円の場合
初めて診断確定されたとき がんの場合 一時金として 100万円
診断給付金 上皮内新生物の場合 一時金として 10万円
入院したとき 入院給付金 1日につき 10,000円
通院したとき 通院給付金 1日につき 10,000円
手術したとき 手術治療給付金 1回につき 20万円
放射線治療を受けたとき 放射線治療給付金 1回につき 20万円
抗がん剤治療を受けたとき 抗がん剤治療を受けた月ごとに 10万円 (すべての保険期間を通じ 1カ月 乳がん・前立腺がんのホルモン療法のため 5万円)
抗がん剤治療給付金
プレミアムサポート 訪問面談サービスと専門医紹介 (このサービスは、株式会社 法研が提供するサービスです)

＜募集代理店＞
アベニール株式会社 TEL:03-3437-6810 FAX:03-3437-6822 〒105-0004 東京都港区新橋5-15-5 交通ビル3F
■事務上の問合せ先
盛岡国労会館 TEL:019-652-4841 FAX:019-651-7720 〒020-0033 盛岡市盛岡駅前北通り4-4
◎詳しくは、パンフレット(契約概要)をご覧ください。 AF007-2011-0186 4月25日